

令和8年6月定例会 議案等に対する賛否について

※表中の見方：「○」＝賛成 「×」＝反対
※議長は表決に加わらないため、「／」としています。

【市長提出議案①】

議案番号	件 名	議決日	議決結果	富山市議会自由民主党 (15人)															自由民主党 (5人)					公明党 (4人)			立憲民主党 (3人)			会派 誠政 (2人)		政策・維新 32 (2人)		日本 共産党 (1人)	太政 (1人)	政風会 (1人)	筑後 (1人)	未来を つくる (1人)	みどり (1人)	参政党 議員会 (1人)					
				木 地	飯 山	織 田	高原 ゆず る	豊 岡	松 井	金 谷	倉 川	押 田	高 田	高 道	横 野	金 厚	鋪 田	高 田	金 岡	藤 田	久 保	江 西	作 山 (議 長)	細 川	柏 佳 枝	松 尾 茂	松 井 桂 将	岡 部 享	東 篤	村 石 篤	尾 上 一 彦	橋 本 雅 雄	金 井 毅 俊	大 島 満	赤 星 ゆ かり	村 上 和 久	市 田 龍 一	谷 口 寿 一	福 田 敏 彦	野 上 明 人	金 山 茜				
議案第125号	令和8年度富山市一般会計補正予算（第1号）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	／	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○			
(議案第125号、議案第131号を一括して討論)	《反対討論要旨／立憲民主党 村石議員》 家庭ごみの有料化の導入については、市民の理解と納得が得られていない状況である。「家庭ごみ有料化実施方針（素案）」のパブリックコメントでは、88人から意見が寄せられ、有料化に8人（9.1％）が賛成、11人（12.5％）が反対し、69人（78.0％）は賛否を示していない。 反対意見としては、「小学1年生を持っている、子育てにお金がかかるので、これまでどおり無料にしてほしい。」「燃えるごみの減量化は、家族みんなで資源物の分別を徹底することで可能であることから、有料化する必要はない。」など多くあった。家庭ごみの有料化の導入について市民の理解と納得が得られていない状況で、現役世代や将来世代の新たな経済的負担となる債務負担行為の追加としての合計額3億9,504万1千円に反対する。 手数料を導入する条例では、廃棄物を減量するために、「指定収集袋」を使用しなければならないとしている。現在、45リットル袋10枚入りのごみ袋が100円超の値段で販売されているが、「指定収集袋」になると手数料が450円となり、1リットル当たり1円になるとしている。新川広域圏事務組合では、45リットル袋10枚入りのごみ袋は180円で、1リットル当たり0.4円となっている。富山県内で1リットル当たりの手数料は富山市が一番高くなり、新川広域圏事務組合の2.5倍となる。 これらのことから、一般廃棄物の項で改める手数料については、反対する。 また、当局は、これまで説明と意見交換を行っているが、とりわけ地域団体等への説明と意見交換が不十分であり、市民の多数が家庭ごみ有料化の導入に対して、理解と納得をしていない。																																												
	(議案第125号、議案第131号を一括して討論)	《賛成討論要旨／富山市議会自由民主党 高田真里議員》 家庭ごみ有料化は、廃棄物の排出抑制や再生利用等による資源循環の推進に寄与し、脱炭素社会の実現に向けた市民の行動変容も期待できる施策であり、国も導入を推奨し、全国約67％の自治体が導入している。本市環境審議会でも4年にわたり議論され、導入を進めるべきとの答申が出されている。 さらには、その間にプラスチックや紙類の一括回収の推進のほか、市民の声を反映し、オムツや剪定枝を対象外とし、袋容量の細分化を図るなど、必要な見直しを進めている。条例改正では、令和9年10月1日から指定収集袋の使用を義務化し、手数料は1リットルあたり1円を目安に設定するが、この手数料の水準は、ごみの減量効果は担保しつつ、分別排出を促進し、市民に過度な負担が生じないよう、資源物等が無料とされており、中核市の平均額よりも安価に設定されている。 債務負担行為の限度額3億9,504万1千円は、上限額であり、ごみ袋、高齢者等へのごみ出し支援、焼却炉更新基金への積立てなど、現在市民から将来市民に渡って還元されるものでもある。 資源の安定供給に不安が高まる今こそ、リユース、リサイクルを進め、循環型社会を構築する必要がある。 また、建設から23年が経過したごみ焼却施設の更新に向け、将来世代の負担軽減のため今から備えることは、今を生きる我々大人世代の責任である。持続可能な富山市を確立し、美しい富山市を将来世代へ引き継ぐため、厳しい判断の中でも決断が必要である。以上から、本予算及び条例改正は適正である。																																											

【市長提出議案②】

[illegible]

【市長提出議案③】

議案番号	件 名	議決日	議決結果	富山市議会自由民主党 (15人)													自由民主党 (5人)					公明党 (4人)				立憲民主党 (3人)			会派 誠政 (2人)		政策・維新 32 (2人)		日本 共産党 (1人)	大政 (1人)	政風会 (1人)	筑健 (1人)	未来を つくる (1人)	みどり (1人)	参政党 議員会 (1人)			
				木 地 智 美	飯 山 勝 彦	織 田 伸 一	高 原 ゆ ず る	豊 岡 達 郎	松 井 邦 人	金 谷 幸 則	倉 川 智 也	押 田 大 祐	高 田 真 里	高 道 秋 彦	横 野 昭	金 厚 有 豊	鋪 田 博 紀	高 田 重 信	金 岡 貴 裕	藤 田 克 樹	久 保 大 憲	江 西 照 康	作 山 長 数 男 (議 長)	細 川 博 徳	柏 佳 枝	松 尾 茂	松 井 桂 将	岡 部 享	東 篤	村 石 篤	尾 上 一 彦	橋 本 雅 雄	金 井 毅 俊	大 島 満	赤 星 ゆ かり	村 上 和 久	市 田 龍 一	谷 口 寿 一	福 田 敏 彦	野 上 明 人	金 山 茜	
議案第132号	富山市児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第133号	富山市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第134号	富山市幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第135号	富山市幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定の要件を定める条例等の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第136号	富山市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第137号	富山市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第138号	富山市印鑑条例の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第139号	富山市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第140号	富山市公民館条例の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第141号	富山市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例制定の件	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第142号	工事請負契約締結の件（（仮称）月岡認定こども園新築主体工事）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第143号	工事請負契約締結の件（（仮称）月岡認定こども園新築機械設備工事）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第144号	工事請負契約締結の件（旧蛸川公民館解体工事）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第145号	工事請負契約締結の件（牛岳温泉グリーンパレス解体工事）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第146号	工事請負契約締結の件（山室中学校第1体育館解体工事）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第147号	工事請負契約締結の件（市道金星線跨線橋下部工（その1）工事）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第148号	工事請負契約締結の件（観光橋塗装塗替（第3工区）工事）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第149号	特定事業変更契約締結の件（富山市総合体育館Rコンセッション事業）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第150号	財産取得の件（校内通信ネットワークの整備に係る無線アクセスポイント 655台）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第151号	令和8年度富山市一般会計補正予算（第2号）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第152号	令和8年度富山市山田地域レクリエーション・観光施設事業特別会計補正予算（第1号）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第153号	令和8年度富山市病院事業会計補正予算（第2号）	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第154号	富山市副市長の選任に関し同意を求める件	6/30	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第155号	富山市固定資産評価員の選任に関し同意を求める件	6/30	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

【議員提出議案①】

議案番号	件 名	議決日	採決結果	富山市議会自由民主党 (15人)															自由民主党 (5人)					公明党 (4人)				立憲民主党 (3人)			会派 誠政 (2人)		政策・維新 32 (2人)		日本 共産党 (1人)	大政 (1人)	政風会 (1人)	筑健 (1人)	未来を つくる (1人)	みどり (1人)	参政党 議員会 (1人)	
				木 地 智 美	飯 山 勝 彦	織 田 伸 一	高 原 ゆ ず る	豊 岡 達 郎	松 井 邦 人	金 谷 幸 則	舍 川 智 也	押 田 大 祐	高 田 真 里	高 道 秋 彦	横 野 昭	金 厚 有 豊	鋪 田 博 紀	高 田 重 信	金 岡 貴 裕	藤 田 克 樹	久 保 大 憲	江 西 照 康	(作 議 山 長 数 男)	細 川 博 徳	柏 佳 枝	松 尾 茂	松 井 桂 将	岡 部 享	東 篤	村 石 篤	尾 上 一 彦	橋 本 雅 雄	金 井 毅 俊	大 島 満	赤 星 ゆ かり	村 上 和 久	市 田 龍 一	谷 口 寿 一	福 田 敏 彦	野 上 明 人	金 山 茜	
議員提出議案 第5号	米価の安定により農業者の経営を守ることを求める意見書	6/30	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議員提出議案 第6号	核兵器禁止条約第1回再検討会議へのオブザーバー参加を求める意見書	6/30	否決	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	
議員提出議案 第7号	武器輸出について憲法の平和主義及び国連憲章に基づく厳格な運用を求める意見書	6/30	否決	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	
議員提出議案 第8号	非核三原則の堅持を求める意見書	6/30	否決	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	
	（反対討論要旨／自由民主党 金岡議員） 核兵器のない世界の実現は共有する理念であり、戦争被爆国として核兵器廃絶を願う思いに異論はない。しかし、本意見書が、いかなる場合にも例外を認めず非核三原則の無条件の堅持を求める趣旨であるならば、政府がこれまで一貫して示してきた見解とは相入れない。ロシアによるウクライナ侵略や北朝鮮、中国、中東情勢など、我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増している。政府は平成22年の岡田外務大臣答弁以来、緊急時にはその時々政権が責任を持って判断するとの立場を維持し、この考え方は安倍内閣、岸田内閣にも引き継がれてきた。地方議会の意見書は、理想だけでなく国の現実的な安全保障政策との整合性も踏まえるべきである。																																									
	（賛成討論要旨／公明党 柏議員） 公明党は結党以来、核兵器を絶対悪と断じ、核なき世界の実現を訴えてきた。1967年の公明党による代表質問を機に表明された非核三原則は、今日まで我が国の揺るぎなき国是として堅持されている。 昨今、核の脅威を背景に核共有や原則の解釈見直しを求める議論があるが、核への依存は悪の連鎖を招くに等しい。非核三原則は日本の道義的立場と国民の安心を支える最大の外交的資産であり、時の政権の都合による解釈変更は、民主主義の観点からも極めて問題がある。 富山市議会公明党は、日米同盟による拡大抑止の強化と非核三原則の厳格な堅持は、両立すべき車の両輪であると確信する。 唯一の戦争被爆国として分断の橋渡しに徹し、未来を守る羅針盤たる国是の堅持を国に強く求める。																																									

【議員提出議案②】

議案番号	件 名	議決日	採決結果	富山市議会自由民主党 (15人)															自由民主党 (5人)					公明党 (4人)				立憲民主党 (3人)			会派 誠政 (2人)		政策・維新 32 (2人)		日本 共産党 (1人)	大政 (1人)	政風会 (1人)	筑波 (1人)	未来を つくる (1人)	みどり (1人)	参政党 議員会 (1人)	
				木 地 智 美	飯 山 勝 彦	織 田 伸 一	高 原 ゆ ず る	豊 岡 達 郎	松 井 邦 人	金 谷 幸 則	倉 川 智 也	押 田 大 祐	高 田 真 里	高 道 秋 彦	横 野 昭	金 厚 有 豊	鋪 田 博 紀	高 田 重 信	金 岡 貴 裕	藤 田 克 樹	久 保 大 憲	江 西 照 康	(議 山 長 数 男)	細 川 博 徳	柏 佳 枝	松 尾 茂	松 井 桂 将	岡 部 享	東 篤	村 石 篤	尾 上 一 彦	橋 本 雅 雄	金 井 毅 俊	大 島 満	赤 星 ゆ かり	村 上 和 久	市 田 龍 一	谷 口 寿 一	福 田 敏 彦	野 上 明 人	金 山 茜	
議員提出議案 第9号	議案第131号 富山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する 条例の一部を改正する条例制定の件に対する附帯決議	6/30	否決	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	／	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○		
	(反対討論要旨／政策・維新32 大島議員) 同じ釜なる末三賀の焼却炉でごみを燃やしている富山地区 広域圏の立山町、上市町が有料化の前に、生ごみの水分を取 る機械を配るなど努力をしているのに、誠に残念である。 今回の附帯決議は、昨年12月定例会のくすりミュージア ムでも否決されたが、エクスキューズとは思えない。内身 をほったらかしにして、安易に動きを止めてはならない。敢 然と前に進むべきである。 生ごみと知恵はまだまだ絞る余地がある。附帯決議は自らの 公約に対する言い訳であり、必要ないものと判断する。																																									
	(賛成討論要旨／自由民主党 久保議員) 今回の附帯決議は、他会派の皆さんとも様々な協議を重ね、 皆さんの思いが可決した後も予算執行もしくは制度設計 の中で生かされるように丁寧に作り上げたものである。当局 の思うとおりにやっているとされるのか、皆さんの思いを 酌んだこの附帯決議が議会の意思として尊重されるよう求め ていくのか、今、これが問われている。 この附帯決議はエクスキューズではなく、議会が過半を超 えて意思を表明し、これに対して当局は、真摯に受け止め行 政執行に当たっていくと、この誓いをする上で、議会として 一致団結しようと働きかけている。																																									
	(反対討論要旨／富山市議会自由民主党 倉川議員) 本条例は、市民負担をお願いする一方、持続可能な廃棄物 行政の実現に向け、当局と議会が十分な議論を重ね可決した ものである。附帯決議に掲げられた内容は、いずれも当局が 当然取り組むべき事項であり、改めて議会として決議を付す 必要性は認められない。 また、議会の説明責任は附帯決議によって果たされるもの ではなく、議員一人一人が市民へ丁寧に説明し、事業の執行 を継続して監視することで果たすべきものである。																																									

【請願】

議案番号	件名	議決日	採決結果	富山市議会自由民主党 (15人)															自由民主党 (5人)					公明党 (4人)			立憲民主党 (3人)			会派 誠政 (2人)		政策・維新 32 (2人)		日本 共産党 (1人)	大政 (1人)	政風会 (1人)	筑健 (1人)	未来を つくる (1人)	みどり (1人)	参政党 議員会 (1人)
				木 地 智美	飯 山 勝彦	織 田 伸一	高 原 ゆずる	豊 岡 達郎	松 井 邦人	金 谷 幸則	舍 川 智也	押 田 大祐	高 田 真里	高 道 秋彦	横 野 昭	金 厚 有豊	鋪 田 博紀	高 田 重信	金 岡 貴裕	藤 田 克樹	久 保 大憲	江 西 照康	作 山 長数男	細 川 博徳	柏 佳枝	松 尾 茂	松 井 桂将	岡 部 享	東 篤	村 石 篤	尾 上 一彦	橋 本 雅雄	金 井 毅俊	大 島 満	赤 星 ゆかり	村 上 和久	市 田 龍一	谷 口 寿一	福 田 敏彦	野 上 明人
令和8年分 請願第1号	非核三原則の堅持を求めるための請願	6/30	不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	／	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	
	(反対討論要旨／富山市議会自由民主党 舍川議員) 請願者の核兵器廃絶と恒久平和を願う思い、そして非核三原則の理念には深く敬意を表する。 しかし、本請願が求める堅持を将来にわたり固定的に求めることには賛成できない。我が国を取り巻く安全保障環境は大きく変化しており、国家には国民の生命、財産と平和な暮らしを守る責務がある。歴代政府も理念を尊重しつつ、現実の安全保障との均衡を図ってきた。国家の安全保障は、その時々々の国際情勢を踏まえ国が責任を持って判断すべき事項であり、地方議会が将来にわたり政策判断を拘束するような意思を示すことは慎重であるべきと考える。																																							
	(賛成討論要旨／日本共産党 赤星議員) 平成6年、旧富山市の市議会は「国是である非核三原則を堅持」と明記した平和都市宣言を採択し、平成17年に富山市議会は核兵器を含む「大量殺りく兵器のすみやかな廃絶」を明記した新市の平和都市宣言を採択した。 昭和42年、首相が国会で「非核三原則（持たず、作らず、持ち込ませず）」を表明後、国是とする決議が6回行われ歴代内閣も堅持してきたが、高市首相は以前から非核三原則の見直しを強く主張し首相になってからも堅持を明言していない。 世界ではウクライナ侵略やイラン戦争が続き、国内でも三原則の「持ち込ませず」の見直し論調や核共有、核保有の意見まで出ている。ノーベル平和賞の日本被団協も核抑止力論は幻想だと世界に発信している。 唯一の戦争被爆国日本こそ非核三原則を堅持し、核抑止力論から脱却し核兵器のない世界へイニシアチブを発揮すべきである。																																							

※表中の討論要旨については、各議員が発言内容を1案件あたり350字程度にまとめたものを掲載しています。(討論の掲載順は実際の発言順としています。)

※各発言の全文については、富山市議会のホームページ内にある「富山市議会インターネット中継」の6月30日開催の本会議分、または、「本市議会の検索と閲覧」の「令和8年6月定例会」(令和8年8月下旬掲載予定)にて、ご確認ください。